

# 田中康夫 令和風景論



# コロナウイルスに翻弄される 極東の島国ニッポン

迫りくる新型肺炎の  
絶望的な令和の風景は  
四散させ、いまウイル  
の島国。その狂騒曲の  
「先手先手」ならぬ「後手  
後手」。「全体最適」どころ  
か「部分最適」すら出来て  
いないCOVİD-19新型  
コロナウイルス狂騒曲。  
「的確な認識」迅速な決断  
と「行動 明確な責任」。そ  
の何れもが欠落する中で、  
「医系技官」という宿痾が、  
極東の蜻蛉洲に絶望的な迷  
走を齎しています。

原因不明の肺炎21人発症と湖北省武漢市が発表したのは昨年の大晦日。そのCOVID-19感染者が日本国内で最初に確認されたのは1月15日。更に38日後の2月22日（土）、「基本的な対処方針」を25日（火）には策定したいと加藤勝信厚生労働大臣は同行記者に発言。「働き方改革」の司令塔である厚労大臣は、不眠不休の厚労官僚に英気を養つて貰わねばと、本格始

それが一日の行動パターンを見直し、対面で人と人との距離が近い接触（互いに手を伸ばしたら届く距離）が、会話などで一定時間以上続き、多くの人々との間で交わされるような環境に行くことをできる限り、回避して下さい。

分以下の人口の韓国ではコロナウイルス検査を2月25日段階で4万5千件も実施済みなのに、どうして日本は3月4日に至っても6千件以下なの？ 素朴な疑問を抱く善男善女を愚弄する「PCR検査について」の文章も採録します。

なぜ感染研は情報を独占するのか

現在、感染症を予防する政策の観点から」「全ての人にPCR検査をすることは、このウイルスの対策として有効ではありません」。

専門家には無意味な検査だとしても、そこで振り翳しているのは「供給側の理屈」。「需要側の不安」と向き合う智性も勘性も温性も欠落しています。

アセチル化した核糖核酸の長鎖を合成する酵素Ⅱ・ポリメラーゼPolymerase、連鎖Chain、反応Reactionの頭文字PCR検査は、綿棒で鼻腔や咽頭の粘膜から検体を採取し、ウイルス感染の有無を調べる古典的な検査手法。日本国内には約100社の民間検査会社があり、900もの検査センタ一を運用。控えめに見積もつて1日20検体を検査するとして、全国で1万8千人分が1日で実施可能です。

既に産官学が懸命に努力しているのですが、設備や人員の制約のため、全ての人々

「きません」と戯れ言を繰り出し、「保険適用」後も検体採取が可能なのは全国860の「帰国者・接触者外来」に限定する。羊頭狗肉は何故なのか? 民間機関への直接委託を拒み、地方自治体の衛生研究所を通じて上がってくるデータを国立感染症研究所が独占する。「情報公開」の透明性とは真逆な深意を探りましょう。

「731部隊の真実」エリート医学者と人体実験」と題して2017年12月、「感染症予防」を名目に細菌兵器の開発に勤しんだ旧日本陸軍の秘密組織・関東

威に對して、迷走を重  
何によつてもたらされ  
への対処を誤つて全世  
揮者と奏者を、異能の作  
動を連休明けに設定したの  
です。心に沁み入る為政者  
の『優しさ』です。  
が、好事魔多し。470  
名も一堂に会した天皇誕生  
日「宴会の儀」から戻った  
安倍晋三首相は、出席が平  
均10分強だった新型コロナ  
ウイルス感染症対策本部会  
議を、この日は17分間も仕  
切れります。「国民の命を守  
るのは私の最大の責務」、「  
森羅万象すべて担当」と  
国会答弁した男子の本懐を  
仕遂げるべく、「総合的な  
基本方針」策定を命じます。  
「国内発生早期」まさに次  
のフェーズへの移行期」と  
加藤大臣は会議後に「言葉  
遊び」。「拡大」の類いの表  
現を避け、聞き慣れぬカタ  
カナ用語で印象を和らげる  
小細工に励みます。  
ルーレット、バカラ等、船  
内カジノの「充実」をH.P.  
ホーリー・ペイント

るばかりの政府。この  
のか。かつて放射能を  
から耳目を集める極東  
が徹底的に指弾する。  
で謳う「ダイヤモンド・ブ  
リンセス号」から下船後に  
陽性となつた感染者発生事  
例を踏まえ、既に帰宅して  
いた下船者に公共交通機関  
の利用自粛を、全国の自治  
体を通じて保健所に丸投げ  
で要請。電話口で「健康確  
認」を毎日実施するアナロ  
グ的「やつてる感」満載な  
即席「対処方針」も発表。  
その同時間帯、韓国の文在  
寅大統領は、感染危機レベ  
ルを4段階で最高の「深刻」  
に引き上げています。

軍防疫給水部＝731部隊を特集したNHKスペシャルをご記憶でしょうか。

その残党が幹部に名前を

陸軍軍医学校跡地に位置する国立感染症研究所（発足当初は国立予防衛生研究所）隣接する国立国際医療研究センターは東京第一陸軍病院が起源。森鷗外が局長だった陸軍省医務局が積極関与した国立伝染病研究所を、港区白金台の東京大学医学研究所へと改組したのがGHQ連合国軍最高司令官総司令部公衆衛生福祉局。奇しくも「専門家会議」メンバーの大半は、帝国陸軍DNAを受け継ぐ3施設の関係者です。

オーストラリア、ニュージーランド、韓国、香港、台湾、イギリス、イタリア、フランス、イスラエル等からチャーター機が羽田に飛来。北方領土問題で日本を袖にし続けるウラジーミル・プーチン大統領のロシアに至っては、「日本の対応は場当たり的でカオスだ」と外務省報道官が「喝破<sup>かつぱ</sup>」。「君と僕は、同じ未来を見ている」「行きましょう、ゴールまで、ウラジーミル、二人の力で、駆けて、駆け抜け抜けようではありますから」。相田みつを顔負けなボエム・スピーチライターの内閣官房参与、谷口智彦・慶應義塾大学大学院教授の力作を読み上げたウラジオストクでの努力も今や雲散霧消する悪寒<sup>おかん</sup>が……。

CNNやロイター通信、BBCと同様に充実した日本語版HPを全文無料で公開するAFPフランス通信社が2月2日、動画＆写真

付きでアップした記事「これが『フランス流』、隔離先は海辺の保養施設、武漢から帰国した179人に僕は舌を巻きました。地中海に面するマルセイユ近郊の優雅な保養施設に全員を隔離したフランス政府は、医師・看護師・心理学者20名チーム、赤十字スタッフ30名を派遣。物資補給は陸上自衛隊的性格の国家憲兵隊が担当。

唯一の制約はマスク着用。仏版「白砂青松」庭園で散策やテニスに興じ、幼児向け図工教室も開設。食事も充実。彼我の違いは大きいとツイートするや「人數が一桁違うだろ！」と脊髄反射なディスりが殺到。阿々。勝浦ホテル三日目に収容された帰国者第1弾は、悲劇の相部屋を加えてもフランスより3人少ない176人。而も武漢出発時に日本政府は同胞に対し、成田到着時の検疫検査に同

意する書類すら用意せぬ一方、金額の多寡が話題となつた航空運賃片道8万円の支払い誓約書は準備万端、整えていたのです。

すると航空オタクの間で、3年前から武漢便をデイリー運航してきた全日本空輸HPには連休直前まで武津成田工コノミー片道が事

前座席指定も可能で2万9220円~と明記されていたのが話題に。「困った時はお互い様」。『気は心』で運賃割引を政府に申し出たら、とANAの然るべき立場の人物に提言するも反応は鈍く、8万円の自己負担は何時の間にか国庫で全額負担へと変容しました。

## 戦後保守の英知に満ちた「政治判断」

臨界事故。翌日の組閣を延期すべきと野中広務官房長官が進言。「後から振り返つて遺り過ぎだったと言われる程の対策を」と首相も述べ、組閣は10月5日に延期されました。

橋本龍太郎内閣で官房長官を務めた梶山静六氏の自宅は事故現場から5km程の場所でした。関西に出張中の彼は直ちに帰郷。事故5日後、前年の自民党総裁選で戦った間柄の小渕氏に、原子力災害対策特別措置法設置を進言。

その総裁選で、自身が所属していた平成研究会の小渕氏でなく、我が師と仰ぐ梶山氏を支持。筋を通して宏池会に入会したのが菅義偉官房長官。去る2月20日の会見で彼は、以下の3項目を読み上げます。

①2月5日以降の感染拡大防止の措置が機能している

③隔離が有効に行われていると確認された  
仮に僕が彼の立場だったなら慚愧の念に堪えないでしよう。斯くも目的外なメモ書きを何故内閣官房の事務方は自分に手渡したのだと。僕は以下の如く睨んでいます

す。その3項目こそは当初  
欣喜雀躍として新型肺炎の  
スポーツ・パークス・ソーランを務め  
た、和泉洋人首相補佐官が室  
長を兼務する内閣官房健  
康・医療戦略推進本部の次  
長でもある、大坪寛子厚労省  
筆頭審議官の、2月20日段階  
の「状況認識」だったのだと。

「80歳以上の致死率は14・8%、40歳以下は0・2%、10歳以下の死者はゼロ」。2月17日に中国版CDC＝疾病管理予防センター(Centers for Disease Control and Prevention)が発表したデータによれば、「高齢者感染防止が第一」の証左。なのに「チルドレン・ファースト」を掲げた民主党連立政権すら及びも付かぬ『悪夢』の「全国全校一斉休校」を、女房役の官房長官にも諂ひらず強行した非科学的「安倍しぐさ」。と記してきた僕は、ウイルスと放射能は「相似形」で、故に両者共に不毛な甲論乙駁が飛び交う存在などと改めて痛感。戦略も戦術も欠落した真珠湾攻撃から70年目の2011年12月8日、「東京電力福島原子力発電所事故に係る両議院の議院運営委員会」の合同協議会＝国会事務調査での僕の意見陳述を再

「航空事故や列車事故は一定の場所、一定の時間、一定の社会グループに悲劇は留まります。原発事故は社会的にも地理的にも時間的にも、更には陸上・海上、空中・地表・地中・海中を問わず、被害が連續・拡大し続ける蓋然性が極めて高く、範囲・濃度・蓄積の何れも変幻自在な放射能は無色・透明・無臭。人間の五官が察知し得ぬ極めて厄介な存在です。」

「状況はアンダーコントロールされている」と全世界に言明した内閣総理大臣。その2年半前に都合7回も会見で「直ちに人体や健康には影響がない」と断言した官房長官。その二人が与野党に君臨する「不思議の国ニッポン」。無色・透明・無臭なウイルス狂騒曲が終り、焼後に私達は果たして、どんな色合いの景色を目にするのでしょうか。